

令和7年3月

令和6年度 委員会活動達成状況点検・評価報告書

千葉県立保健医療大学

自己点検・評価委員会 自己点検・評価実施推進部会

目 次

| | |
|---------------------|----|
| 共通教育運営会議 | 1 |
| 特色科目運営会 | 2 |
| 入試改革検討委員会 | 3 |
| 入試実施委員会 | 5 |
| 教務委員会 | 7 |
| FD・SD 委員会 | 8 |
| 学術推進企画委員会 | 10 |
| 学生委員会 | 12 |
| 進路支援委員会 | 14 |
| 研究倫理審査委員会 | 16 |
| 国際交流委員会 | 17 |
| 図書委員会 | 19 |
| 社会貢献委員会 | 21 |
| 自己点検・評価委員会 | 23 |
| 将来構想検討委員会 | 25 |
| 総務・企画委員会 | 27 |
| 広報委員会 | 28 |
| 情報システム委員会 | 30 |
| 衛生委員会 | 31 |
| 危機管理委員会 | 32 |
| 人事委員会 | 34 |
| 教員再任審査委員会 | 35 |
| キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 | 36 |

共通教育運営会議 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| 1. 目標 一般教養科目、保健医療基礎科目、医学系科目の充実をはかる。 |
| 2. 目標達成のための具体的な活動計画 ・一般教養科目、保健医療基礎科目、医学系科目のうちで、保健医療専門職を目指す学生教育という観点で、どの科目へ常勤教員を配置すべきか明らかにする。 ・一般教養科目、保健医療基礎科目、医学系科目担当教員の業務内容・業務負担（特に学科・専攻内）における問題点を明らかにし、改善する。 |
| 3. 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果 |
| 4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項 [達成事項] ● 今年度も定年退官する共通教育の教員がいたが、常勤教員枠が非常に限られている中、後任教員が担当すべき科目について共通教育運営会議、大学運営会議を通して discussion し後任教員の担当科目を決定しており、どの科目へ常勤教員を配置すべきかについての決定プロセスについては一定の成果が得られたと考えられる。 ● 情報科目（情報リテラシーⅠ、Ⅱ）のデータサイエンス科目への移行の道筋がついたこと ● リハビリテーション学科の学生が教育学関連科目4単位を履修する場合、R7より本学の科目履修で完結できるようにしたこと [評価結果の理由と改善策] 今年度も共通教育担当教員の業務内容・業務負担についての問題点はあまり明らかにできなかった。本学の共通教育担当教員の常勤枠は非常に少なく、将来的に大学院設置を計画しているのであれば、共通教育担当教員の常勤枠数・担当科目を決定する際に現状での共通教育担当教員の業務負担・改善すべき事項を明らかにする必要があると考えられる。 [申し送り事項] 共通教育担当教員の常勤枠数・担当科目については大学院化も見据えて考慮していく必要がある。 |
| 5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 (理由) 共通教育担当教員が担う科目や情報科目の再編に向けての整理がなされた。また、リハビリテーション学科の教育学関連科目についても学生の利益につながる改善がなされた点は評価できる。申し送り事項である共通教育担当教員の業務や人数の適正化に向けて引き続き検討することが期待される。 |
| 委員長：山本達也 |
| 面談者：佐藤紀子（学部長） |
| 面談日：2025年2月18日 |
| 自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕 |

特色科目運営会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <p>患者・利用者中心のケアを促進できる人材育成をめざし、特色科目全体を通してらせん的なラーニングを促す。地域資源の活用によるサービスラーニングを拡充する。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連委員会と協働して「社会実習」を開講し、学生の自主性・ボランティア活動の活性化を促す。進捗状況の情報を共有し、科目の目標にそった役割分担を構築する。 ・学年ごとの特色科目における学修の積み重ねを検討・構築する。単なる知識伝達の科目構成ではなく、アクティブラーニングを効果的に用い、学生の専門職としての資質を成長させる内容とする。具体的に、特色科目カリキュラムマップを再検討する。 ・次年度以降の「社会実習」について、学びの場を広げ、長期的な指針を検討する（UR都市機構に加え、もう1カ所拡大させる）。 |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの特色科目進捗状況について情報を共有し、運営会として協議すべき事柄が生じた場合は検討できる体制とした。委員会費にて、「千葉県の健康づくり」で使用するルーターを調達した。今年度、特に協議する問題点は部会からあげられなかった。次年度の科目責任者選定について確認した。 ・「社会実習」履修者は、看護・栄養・歯科衛生学科から2年生8名の履修申請があったが、実習を伴う時間割の関係で履修者は4名であった。既習の特色科目による意識付けやオンデマンドによるオリエンテーションで、昨年と比較して3倍近くの学生が申請した。 ・学びの場は、昨年同様の千葉市内UR団地に加え、いすみ市で実施するほい大プログラムに拡大した。 ・大学パンフレットに記載されている特色科目カリキュラムマップについて検討した。科目の流れ（感じる→つながる）について疑義があった。特色科目以外の科目との関連性とゴールを示したマップ作成の必要性が、来年度以降の課題として掲げられた。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各特色科目の作業部会員と本運営会の構成員が兼任されるため、全体の様子は、部分的ではあるが微妙に認識されている。 ・社会実習に関する運営会の目標（活動の場、履修者を増やす）は、部会の頑張りにより達成している。 <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、社会貢献委員会との合同開催会議を開催してはどうか。 ・社会実習以外の科目についても、IPEの積み重ねに準じた明確な目標を提示した方がいい。 |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>特色科目の進捗状況をモニタリングしながら必要な管理・対応がなされた。特色科目の作業部会員との協働により、各特色科目の位置づけおよび社会実習の充実が期待される。</p> |
| <p>委員長：島田美恵子</p> |
| <p>面談者：佐藤紀子（学部長）</p> <p>面談日：2025年2月26日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

入試改革検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <p>1) 令和7年度一般選抜における理学療法学専攻の大学入学共通テスト利用科目の変更について審議し、令和6年6月末までに公表する。</p> <p>2) 令和7年度一般選抜における大学入学共通テスト「旧教育課程による出題科目」の受験者への対応を審議し、令和6年6月末までに公表する。</p> <p>3) 平成30年度から特別選抜の定員を4割から5割に変更したことによる入学後の状況を調べ、アドミッション・ポリシーに則った入学生が確保できているかを評価する。</p> <p>4) 各学科・専攻ごとに調査書等を活用した面接試験方法を見直し、改善の必要性を検討する。</p> <p>5) 看護学科の意向を踏まえつつ大学全体の編入制度について検討する。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 令和6年度の理学療法学専攻入学者状況を調査し、令和7年度一般選抜における大学入学共通テスト利用科目の変更を決定する。</p> <p>2) 一般選抜の大学入学共通テスト利用科目と旧教育課程による出題科目を調査し、各学科・専攻の対応を決定する。</p> <p>3) これまで集積した調査データに令和5年度卒業生の各学科・専攻別GPA、退学者、就職、国家試験合格状況を加え、その動向から現行の入試制度を評価する。</p> <p>4) 調査書等の閲覧方法や基準点の算出方法などから面接試験を評価し、現行の面接試験の方法の改善の必要性を検討する。</p> <p>5) 大学機関別認証評価の指摘事項を参考に、看護学科の編入制度を含めて入学者選抜制度の現状を調査する。</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1) 一般選抜の理学療法学専攻の大学入学共通テスト利用科目と配点を変更した。</p> <p>2) 一般選抜の大学入学共通テスト「旧教育課程による出題科目」受験者への対応を公表した。</p> <p>3) 平成24年度から令和2年度入学生のGPA、留年者・休学者・退学者、国家試験及び県内就職率等の情報に基づいた学生の特徴を調べ、各学科・専攻ごとの評価をまとめた。</p> <p>4) 調査書等の閲覧方法や基準点の算出方法をまとめ、アドミッション・ポリシーに沿っているのか各学科・専攻ごとに確認した。</p> <p>5) 編入制度について看護学科内で引き続き検討していくことになった。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>1) 及び2)は目標を達成した。</p> <p>3)は新カリキュラム・ポリシー変更後2年間限定だが、当初の目標を達成した。</p> <p>4)は委員会内で意見を取りまとめた。</p> <p>5)は看護学科内での検討を踏まえ、今後の方針を考える。</p> <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストで実施された「情報」の結果を踏まえた高校、教育委員会及び文部科学省の対応を分析する。 ・他教科との選択や配点を含めた「情報」の設定に資するFD・SDを開催する。 ・一般選抜、特別選抜、社会人及び編入学試験受験者ごとのGPA、留年者・休学者・退学者、国家試験及び県内就職率等の情報を分析して評価する。 |

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要
(理由)

目標達成に向けた活動は計画通りに実施された。入試方法の検討、評価は、大学にとって重要な事項であるので、今後も継続的な改善に向けた活動が期待される。

委員長：菊池裕

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2025年2月18日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <p>① 本学のアドミッションポリシーに沿った学生を選抜するための一連の入試業務を公平・公正に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">入試実施業務：特別選抜・編入学試験・一般選抜・大学入学共通テストそれぞれが確実に、かつ効率的に実施されるよう、各段階における作業手順を見直し、実施要領を更新する。採点業務の効率化に向けて昨年度導入した方法を評価し、改良する。入試問題作成：作問者への問題作成依頼、作成された入試問題の校正を実施し、適切な入試問題・解答用紙・採点基準を作成する。 <p>② 出題誤りの再発防止策を検討し実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">作成中の入試問題の解答・採点試行を外部委託により実施する。作問者、校正者、点検者の役割を明確化したマニュアルづくりを進める。 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>■ 入試実施業務について</p> <ul style="list-style-type: none">6月：入学者選抜要項の完成・配布7月：特別選抜・編入学試験 監督者・面接者等の人選9月：特別選抜・編入学試験 募集要項の完成・配布10月：特別選抜実施要領・監督要領の完成・配布11月：一般選抜学生募集要項の完成・配布 一般選抜試験 監督者・面接者等の人選 特別選抜試験・編入学試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート1月：一般選抜試験実施要領・監督要領の完成・配布2月：一般選抜試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート <p>■ 入試問題作成について</p> <ul style="list-style-type: none">4月：今年度入試問題作成担当者の選出・依頼5月～10月：特別選抜試験・編入学試験問題の校正9月～2月：一般選抜試験問題の校正11月初旬：特別選抜試験・編入学試験問題の完成・印刷2月初旬：一般選抜試験問題の完成・印刷2月～3月：小論文作問ガイドの検討 |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① 入試実施業務（特別選抜・編入学試験、一般選抜試験）</p> <ul style="list-style-type: none">各入試の実施要領・監督要領を委員会で検討し、実施状況に即した具体的な内容に修正した。特別選抜・編入学試験監督者を対象に事前説明会をWEBにて実施した。説明会後に質問を受け付け疑問点を解消し、試験当日トラブルなく終了できた（一般選抜試験はこれから実施予定）。採点結果の自動計算シートについて、採点者間の誤字脱字の減点不一致や2段階以上の点差の有無を検出しやすくなるよう改良し、入力点検・集計の効率化を図ることができた。 |

- ・大学入学共通テストを東都大学と共同で実施した。今年度は事前説明会をコロナ以前のように各大学開催と合同開催の2回とも対面による実施に戻し、欠席者には説明会を録画した動画視聴を課して試験に備えた。試験当日、試験監督者や本部班の不適切な対応があり追試験申請や繰り下げ試験が生じ、監督者への事前説明内容や試験本部内の連携が課題となった。問題仕分けや問題引き渡し・解答受け取りについて、具体的な作業手順を担当者間で確認しながら実施し大きな問題なく進めることができた。
- ・試験後アンケート結果（委員が輪番制でとりまとめ）を委員会で共有し、問題点について対応策を検討し次の入試で改善を図った。

② 入試問題の作成・出題誤り再発防止策の実施

- ・特別選抜・編入学試験、一般選抜試験における小論文及び専門科目試験問題について、作問チームと校正チーム（入試実施委員長・副委員長・委員長指名の入試実施委員の3名）を編成し、WEBによる検討会議を各3回実施し、事前点検結果と併せ、適正な問題を作成できた。
- ・出題誤りの再発防止策として、外部委託による試験問題の事前点検を学校推薦型と一般選抜で実施した。加えて、校正者用問題点検リストを作成・運用し出題誤りの再発を防止できている。

③ 出願に関する受験生対応

- ・通信制高校の場合の出願資格の有無、高等学校卒業後長期間経過している場合の出願書類など、受験生の多様化に伴う出願資格や出願書類についての問い合わせが例年に比べ増加し、その都度検討しながら対応した。

[評価結果の理由と改善策]

入試業務の公平・公正な実施に関しては、実施要領・監督要領を改善して事前説明会を実施し受験生に不利益のない入試を実施できたこと、採点・入力業務において効率化を図ったこと、入試問題は外部業者の事前点検による助言も併せて適正に作成できたこと、また、出題誤り再発防止策実施については、外部委託による事前点検により出題誤りが生じていないこと、教員の負担軽減につながった点から、ほぼ目標通りの成果と評価した。

改善策として、大学入学共通テストで監督者や本部班の不適切な対応が生じたことから、説明会で強調する内容、本部班が連携しやすい環境や方法の検討が必要である。また、問題引き渡しなど具体的手順のマニュアル化を進め、当日の円滑な実施につなげる必要がある。

[申し送り事項]

受験生の多様化に伴う出願資格・出願書類を検討し、選抜要項・募集要項に受験生にわかりやすいよう記載する。マニュアル化されていない入試実施業務で、試験当日の円滑な実施にかかわる業務（問題仕分け、問題引き渡し・解答受け取り引き継ぎ）のマニュアル化を優先して行う。3つの入試（特別選抜・編入学、一般選抜、大学入学共通テスト）に共通する部分の実施要領・監督要領及び必要書類の更新・引継ぎ方法の効率化を検討する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

計画通りに遂行されている。特に、「出題誤り再発防止策実施」の導入は評価すべき項目である。次年度以降、説明会の内容・本部班との連携体制の検討、入試実施業務における「具体的な手順」のマニュアル化を進めることが期待される。

委員長：浅井美千代

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2025年2月20日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

教務委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新カリキュラム作成 ② アセスメントポリシーの作成 ③ 課題解決力を高めるための自己主導型（アクティブラーニング）の推進 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新カリキュラム作成部会を立ち上げ、令和4年度に作成された教養教育のあり方に関する検討ワーキング報告書および、令和5年度に作成されたカリキュラムポリシーおよび第3次カリキュラム評価をもとに、新カリキュラムを作成し、時代のニーズに対応できる実践力とリーダーとしての素養を身に付けた人材の養成を目指す。 ② 大学認証評価での指摘事項である、アセスメントポリシーの作成に着手し、学修成果・教育成果を評価・検証する体制の整備を行う。 ③ 昨年度未実施であった、課題解決力を高めるための自己主導型（アクティブラーニング）に対する知識と認識を深めるためのFDを開催する。 |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新カリキュラム作成部会を立ち上げ、新カリキュラムを作成し、文部科学省への申請を行った。 ② アセスメントポリシー作成部会を立ち上げ、アセスメントポリシーを作成し、大学運営会議で承認を受け、教授会で報告を終え、3月の評議会へ提出することとなった。 ③ 3月28日にFD「医療系大学におけるアクティブ・ラーニング」講師 昭和大学医学部医学教育学講座 泉美貴教授を実施予定である。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>①～③について、目標どおり実施することが出来た。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>①、②に関しては、4年後をめどに評価を行い、改善の必要性を検討する必要がある。</p> |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>新カリキュラムやアセスメントポリシーの作成など、目標に沿った活動が実行されている。自己主導型（アクティブラーニング）の推進に向けた継続的な取り組みが期待される。</p> |
| <p>委員長：堀本佳誉</p> |
| <p>面談者：佐藤紀子（総括委員長）</p> <p>面談日：2025年2月17日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

FD・SD委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標 FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するシステムの構築</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) FD・SDマップを参照して実施</p> <p>①教育</p> <p>(レベル1) 科目を運営・評価するための基本的方法を理解する 「試験の作成」(教務委員会担当検討) 「教育評価、評価基準の作成など」(教務委員会担当検討) 教育倫理に関する理解を深める 「教育倫理」(FD・SD委員会担当検討)</p> <p>(レベル2) 学生支援に関する実践能力を向上させる 「学生相談・学生支援」(学生委員会担当検討)</p> <p>(レベル3) 教育経験の浅い教員に指導 「教育に対する相談と対応など」(担当委員会保留) 自らの教育能力を省察できる(担当委員会保留)</p> <p>②研究 研究について適時提供(学術推進企画委員会担当検討)</p> <p>③社会貢献 FD・SD委員会で検討・適時提供(各委員会担当検討)</p> <p>④管理・運営</p> <p>(レベル1) 教員の説明能力を高める方法 「プレゼンテーションの方法」(FD・SD委員会担当検討) 「大学の歴史、理念、組織、国・県の理解を深める」(学長・FD・SD委員会担当)</p> <p>(レベル2) 創造力を高める 「問題解決技法など」はコンプライアンス研修として(事務局担当)</p> <p>(レベル3) コミュニケーション能力を高める 「能力やパーソナリティに応じた対応など」(FD・SD委員会担当)</p> <p>2) 実施後のアンケート集計を実施(方法等の確定周知)</p> <p>3) 各FD・SDにおける、年間計画、報告書などの公表の実施</p> |
| <p>3. 目標達成度(自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1) 2024年度FD・SDマップを参照して実施</p> <p>①教育</p> <p>(レベル1) 科目を運営・評価するための基本的方法を理解する 「試験の作成」「教育評価、評価基準の作成など」(教務委員会継続) 教育倫理に関する理解を深める 「倫理とプロフェッショナリズム」R6.8.23(FD・SD委員会)</p> <p>(レベル2) 授業展開能力を高める 「医療系学部におけるアクティブラーニング」R7.3.28(教務委員会) 「数理・データサイエンス・AI教育認定制度に関するFD」R7.3.6(教務委員会) 学生支援に関する実践能力を向上させる</p> <p>(レベル3程度) 教育に対する相談と対応など 「発達障害と合理的配慮」R6.12.20(学生委員会)</p> |

| |
|--|
| <p>(レベル3) 自らの教育能力を省察できる 「学問の自由」 R6. 11. 11 (学術推進企画委員会)</p> <p>②研究 (レベル2) 研究遂行スキルが向上する 「質的研究について」 R7. 3. 11 (学術推進企画委員会) 競争的研究資金運用スキルが向上する 「学術論文の即時 OA 義務化 [機関リポジトリ]」 R6. 11. 28 (学術推進企画委員会) 「学術推進のための AI や DX に関する学びについて (仮) 予定」 R7. 2. 27 (学術推進企画委員会)</p> <p>③社会貢献 (レベル1) 社会貢献に関する理解を深める 「社会貢献への理解を深める：さまざまな社会貢献の方法 (地域連携)」 R7. 3. 18 (社会貢献委員会)</p> <p>④管理・運営 (レベル1) 教員の説明能力を高める方法 「プレゼンテーションの方法」 R7. 3. 4 (FD・SD 委員会) 「将来構想にかかる情報共有会 (案) 予定」 R7. 3. 18 (将来構想検討委員会)</p> <p>(レベル2) 創造力を高める 「職場出前講座 “千葉県職員倫理条例について”」 R6. 9. 19 (事務局担当) コミュニケーション能力を高める 「「交渉」を中心にしたコミュニケーションについて」 R7. 2. 19 (FD・SD 委員会)</p> <p>(レベル3) リスクマネジメント能力が高まる 「職場出前講座 “飲酒運転根絶について”」 R6. 8. 27 (事務局担当) 「ハラスメント対応と予防」 R7. 2. 3 (キャンパスハラスメント防止対策委員会) 「“FD タイトル未定”」危機管理委員会実施検討中</p> <p>2) 実施後のアンケート集計を実施 (方法等の確定周知) FD・SD 委員会と Teams にて集計表を作成し、結果記入を実施している。</p> <p>3) 各 FD・SD における、年間計画、報告書などの公表の実施 年間計画は FD・SD マップにそって年度初めに課題事項とその委員会分掌の確認と計画依頼を実施した。FD・SD 委員会毎に実施計画と報告を実施した。また、公表については、教職員周知のため計画表として “outlook による予定表に教職員情報共有” を実施した。</p> <p>[評価結果の理由と改善策] 「目標」である FD・SD マップを指針にそって、「活動計画」に対する「達成事項」ほぼ終了予定となっている。また、必要に応じて各委員会で FD・SD を実施していただいた。</p> <p>[申し送り事項] 次年度、新しく指針 (FD・SD マップ) の見直しあるいは、マップにそって年度初めに各委員会の新メンバーで新たに計画の検討・目標の合意、さらに必要不可欠な FD・SD の項目の選出・受講の促進について検討の必要性がある。</p> |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由) 活動計画に従い各種取組みが着実に実施されている。各委員会主催の FD・SD を横断的に把握・推進することで教職員の包括的な質向上に寄与していると言える。</p> |
| <p>委員長：岡村太郎</p> |
| <p>面談者：佐藤紀子 (統括委員長) 面談日：2025 年 2 月 17 日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

学術推進企画委員会 活動達成状況点検・評価表 (2024 年度)

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <p>1. 本学の学術研究活動の活性化に努める.</p> <p>2. 学内共同研究課題の募集と審査を円滑に行う.</p> <p>3. 外部資金, 特に科研費の獲得を推進する.</p> <p>4. 紀要の原稿募集と編集, 発行を円滑に行う.</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p><u>1. 学術研究活動の活性化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究活動に資するイブニングセミナーを企画, 実施する. <p><u>2. 学内共同研究課題の募集と審査</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内共同研究課題の募集と審査を円滑に行う. <p><u>3. 外部資金, 特に科研費の獲得の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き外部の研究支援サービスを提供する. 科研費計画調書の添削, 科研費申請スケジュール管理, オンデマンド科研費セミナーなどを予定している. 加えて科研費申請書作成に関する教授等への相談体制, 採択された科研費申請書を閲覧できる体制を継続する. ・科研費等競争的外部資金および学内共同研究申請率(以下, 科研費等申請率) 80%, 科研費採択率 30%, を数値目標として設定する. <p><u>4. 紀要の原稿募集と編集, 発行</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の原稿募集と編集, 発行を円滑に行う. |
| <p>3. 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項, 評価結果の理由と改善策, 次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p><u>1. 学術研究活動の活性化</u></p> <p>全2回のイブニングセミナーを実施した. テーマは第1回「学問の自由」, 第2回「学術論文の即時OA義務化について」. 事後アンケートはいずれも約80~100%が「満足」または「まあまあ満足」と回答し, 同じく約80~100%が「今後の教育・研究の参考になった」と回答した. 年度内に第3回「学術推進のためのAIやDXに関する学びについて」, 第4回「質的研究の考え方」を予定している.</p> <p><u>2. 学内共同研究課題の募集と審査</u></p> <p>問題なく実施された.</p> <p><u>3. 外部資金, 特に科研費の獲得の推進</u></p> <p>昨年度に引き続き外部の研究支援サービスを提供した. 科研費計画調書の添削, 科研費申請スケジュール管理, オンデマンドの科研費セミナーなどが提供され12名が利用した. 科研費等申請率, 科研費採択率は集計待ち.</p> <p><u>4. 紀要の原稿募集と編集, 発行</u></p> <p>問題なく実施された.</p> <p><u>5. その他</u></p> <p>令和6~10年度の本学重点施策において本委員会へ重点施策II「健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献」の大項目3「健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化(行政や関係機関等との協働による実践的研究の推進)」のもと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小項目2「2. 行政や保健医療機関, 地元企業, 職能団体等と実践現場の課題や研究について交流できる場づくり(共同研究発表会の活用)」 ・小項目3「研究の活性化の基盤となる競争的資金を組織的に獲得するためにFD*や若手研究者の支援体制を充実」 |

- ・小項目4「県の健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化や地域貢献活動の基盤となる学術・研究活動の水準向上」

が課せられている。令和6年度の年度目標はそれぞれ

- ・小項目2「基盤整備：共同研究発表会を課題や研究についての交流の場として活用する具体的な方策、すなわち対象者・対象範囲、案内方法、発表会の運営方法、を検討する。」
- ・小項目3「課題把握：既存の外部資金獲得支援体制は継続運用する。学内研究者を対象としたアンケート調査を実施し、外部資金獲得に関する課題を把握、分析し、解決に向けた方策を検討する。」
- ・小項目4「学術・研究活動の水準向上につながるFDの実施。シンクタンク機能や地域貢献活動に活用できる学内外の人的リソースのリスト化」

である。今年度の実施状況は

- ・小項目2：共同研究発表会に新規に参加可能とする外部研究者等の範囲の検討(県職員と県出先機関の研究員まで)。学内共同研究発表会運営上の課題抽出を行い、抄録の紀要掲載において二重発表・投稿や着想が剽窃されるリスクの指摘に対し共同研究発表会での発表の1年延期を認める改定(現状は課題遂行年度の翌年度発表が義務)、および同趣旨に沿って共同研究募集要項・共同研究発表会それぞれの要綱を改定。
- ・小項目3：全学教員を対象に「外部資金獲得に関するアンケート」を実施。アンケート回収率72.5%(58/80)。「研究以外の業務の整理・削減」、「申請書添削などのサービス導入・継続」、「県費による研究費の柔軟化」、「事務手続きの簡素化」、「外部資金申請のインセンティブまたは必須化」の意見に対し来年度以後に実施可能な方策を検討。
- ・小項目4：学術・研究活動の水準向上につながるFDとして第1回「学問の自由」、第2回「学術論文の即時OA義務化について」を実施した。さらに年度内に第3回「学術推進のためのAIやDXに関する学びについて」、第4回「質的研究の考え方」を予定している。

また本委員会では令和8年度以後の公的資金による研究課題のオープンアクセス(OA)化に関する国の方針についての対応を進めた。その一貫として外部有識者によるOAや機関リポジトリに関するFD(上述)を開催し、全学教員へパブリックコメントを求め、研究データポリシー素案を機関リポジトリWGに提出した。

[評価結果の理由と改善策]

年度当初目標は目標達成のための具体的な活動計画に沿ってほぼ達成されているため。

加えて重点施策における年度目標も一部を除きほぼ達成されているため。

[申し送り事項]

- ・重点施策のR6年度目標小項目4のうち「シンクタンク機能や地域貢献活動に活用できる学内外の人的リソースのリスト化」が未実施のためR7年度以後の目標の見直しを要する。
- ・研究データポリシーについてR6年度は本文を策定した。R7年度に解説パートの作成を要する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

年度当初目標は目標達成のための具体的な活動計画に沿ってほぼ達成されている。加えて、重点施策もⅡ-3-4「シンクタンク機能や地域貢献活動に活用できる学内外の人的リソースのリスト化」以外は、実施された。重点施策Ⅱ-3-4の推進に加え、研究データポリシーの解説の作成が期待される。

委員長：太和田暁之

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2025年2月26日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

学生委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生ハンドブック「学生生活」に照らした学生支援を実施し、充実した学生生活が送れるようにサポートする。 ・ホームカミングデイや同窓会/分科会活動の推進に務め、卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備できるように着手する。 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p><u>13分野の取組</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内整備：学内環境を点検し、事務局と連携して、Wi-Fi環境やトイレの洋式化を進める ② 学生会：新役員への活動支援（新入生歓迎会やサークル活動など）を行う ③ いずみ祭：企画から実施まで、全委員でサポート体制をとる ④ 自販機、キッチンカー：学生からの要望にそえるように努める ⑤ 卒業式：式歌の練習をサポート、同窓会からの花の設置 ⑥ 学生対象セミナー：ブラックバイト、DV予防の動画を配信する ⑦ 同窓会との連携：同窓会/分科会活動の推進に務め、教育支援等の体制整備に着手する ⑧ 学生からの相談内容の把握：昨年度のアンケート結果を踏まえ、対策の必要性を検討する ⑨ 幕張キャンパス駐輪場の管理：駐車マナーの周知および必要に応じた駐輪場の整備をする ⑩ 後援会との連携：加入者増加への支援を行う。後援会から頂いた備品の管理をする ⑪ 教員向けFD開催：「学生支援のあり方、障害のある学生への支援等」についての講演を企画 ⑫ 学生向け講演：「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係」の講演を企画 ⑬ 新入生WEB講習：AEDの取り扱いの知識をつけていただくため、消防庁がインターネット上で公開している「応急手当 普通救命講習編」を受講してもらう |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内環境の点検については、学生さんや保護者からのアンケート結果を事務局と共有し、Wi-Fi環境の強化やトイレの洋式化を順次進めている。 ② 学生会とはチャットで連絡をとり、新役員への活動支援を行うことができた。 ③ いずみ祭（10月13日、14日）の実施は、学生たちが力を合わせて、昨年度より盛大に開催することができた。来場者数は13日が510名、14日が346名で計856名となり、昨年より160名増であった。 ④ キッチンカーを導入し、学生からの要望にそえるように努めることができた。 ⑤ 卒業式のお花については、各学科専攻の分科会が輪番制で手配をしている。写真については、業者に依頼し、費用は後援会に助成していただく予定。また、卒業式での式歌の練習は3月11日に予定。 ⑥ 学生対象セミナーにおいては、ブラックバイトの動画が4月15日から5月14日、DV予防の動画が8月8日から9月6日で配信することができた。 ⑦ 各学科専攻の分科会でのホームカミングデイや研修会の活動の推進に務めることができたが、教育支援等の体制整備の着手には至らなかった。 ⑧ 学生からの前期相談内容については、昨年度のアンケート結果を踏まえ、対策の必要性を検討することができた。後期は、今後実施予定。 ⑨ 幕張キャンパス駐輪場の整備は、白線が薄くなってきているため、事務局に依頼中。 ⑩ 後援会説明を入学式後に10分間設け、加入者の増加を図ることができた。前年度より25.8%上回り、73.9%となった。また、後援会から頂いた備品の管理は継続して実施。 |

- ① 教員向けFD「発達障害の学生対応」を12月20日(金)に開催できた。参加者は、対面34名、オンライン11名あった。
- ② 学生向けに「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係」の講演を8月8日(木)に開催できた。
- ③ 新入生にAEDの取り扱いの知識をつけていただくため、4月15日から5月14日にWEB講習を受講させることができた。

[評価結果の理由と改善策]

学生ハンドブック「学生生活」に照らした学生支援は概ね、実施することができた。学内や学習環境の整備については、少しずつ改善されているが、事務局から県にあげていただき、継続して実施をお願いしたい。各学科専攻の分科会でのホームカミングデイや研修会にとどまり、教育支援等の体制整備の着手には至らなかった。同窓会と話し合っ方向性を検討したい。

[申し送り事項]

キッチンカーを導入することができたが、利用者が少ないことが課題となっている。学生が利用しやすい曜日を設定し、幕張キャンパスでは継続できるようにする。学生向けセミナーで動画配信をしても、視聴する学生が少ないので、対面にきりかえるなど対策が必要と思われる。また、学生向け講演に関しても、参加者が少ないため、時期を検討し、4月のガイダンス時に実施することが望まれる。2年生で、再度「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係」の講演を企画する必要があると思われる。教員向けFDのアンケートに、合理的配慮が必要な学生に対しての本学の取り組みの現状やこれから目指そうとしている方向性などもあわせて説明してほしいとの意見がありました。また、困っている事例については、事前に提出いただけるように、周知徹底が必要と思われる。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

キッチンカー導入は、これまで学生の要望が多かった食事環境の改善に繋がっており、継続して事業者に来てもらえるよう、今後の利用者増に向けた工夫を期待します。学生会支援や、後援会や同窓会との連携等は着実に実施されている。いずみ祭は開催に向けて学生をサポートし、来場者も昨年比2割増とするなど尽力した。学生対象セミナー及び講習会、教員FDは時宜にかなった企画が行われ、参加増に向けた工夫が行われている。委員会活動はPDCAサイクルによる運営が行われ、掲げた計画が着実に実施された。

委員長：細山田康恵

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2025年2月17日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

進路支援委員会 活動達成状況点検・評価表 (2024 年度)

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所掌事務に関する活動を計画的に実施する。 ・県内就職率の向上や全学科専攻での国家試験合格率 100%をめざし、各学科専攻と連携を図り、大学全体で取り組んでいく。 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に3年次生を対象にしたキャリアセミナーを年3回、ジョブカフェを年3回実施する。 ・年度当初に、国家試験受験対策および就職進学支援の年間計画を学科専攻ごとに企画し、委員会開催時に進捗状況を把握し、学科間で情報共有を図り、活動に役立てる。 |
| <p>3. 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/> 5大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① 年度当初に作成した進路支援計画に沿い、全学及び各学科専攻で、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施できた。</p> <p>② キャリアセミナーは予定通り年3回実施できた。第1回8月8日(木)1部は全学で「就活の進め方」について、2部は各学科専攻で「採用者はここを見る！現場の求める人材とは？」で実施した。第2回は全学で8月21日(水)「公務員業務説明会」において、千葉県職員(人事委員会事務局、病院局看護師職、知事部局保健師職・管理栄養士職)の4名の方にご講演いただくことができた。第3回は全学で3月11日(火)「就職活動に必要なマナーのツボ」について、イメージプロデュース協会の方にご講演をいただく予定。</p> <p>③ ちば若者キャリアセンタージョブカフェ就職支援セミナーを年3回実施できた。第1回6月19日(水)「自己PR作成セミナー」、第2回9月25日(水)「エントリーシート対策セミナー」を実施できた。第3回2月26日(水)「個人模擬面接セミナー」を実施予定。</p> <p>④ ハローワークによる個別就職支援活動は看護5名、栄養2名、歯科衛生4名、理学療法5名、作業療法15名の計31件の予約があり、7月から8月にかけて利用者が多かった。進路支援室の活用は、看護103名、栄養9名、歯科衛生50名、理学療法6名、作業療法6名の計174名であった。(1月7日時点)</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>キャリアセミナー第1回は136名の参加者があり、アンケートの「参考になったか」の問いに対し、「とてもなった」「まあまあなった」とほぼ回答されており、好評な結果が得られた。第2回は59名の参加者があった。アンケート結果では、「参考になった」という回答がほとんどだった。学生さんから公務員の採用試験や業務内容、やりがいなどについて、理解を深めることができたとのコメントが多く寄せられた。次年度以降も、千葉県職員の方に講演していただく方向で検討していきたい。第3回に関しては、学生さんのアンケート結果を踏まえ、継続を検討していきたい。</p> <p>ちば若者キャリアセンタージョブカフェ就職支援セミナー第1回は看護学科13名参加、第2回は12名参加で実施できた。アンケート結果では、全員が満足、概ね満足との回答で、両回とも、少人数できめ細やかな指導を受けられ好評であった。今後の実施予定の第3回も含め、継続を検討していきたい。</p> <p>ハローワークによる個別就職支援活動、進路支援室の活用は、学生さんの就職支援に必要な手段であるため、今後も継続するとともに、オンライン化を進め、外部からも就職情報を閲覧できるように進めていけるようにしたい。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>キャリアセミナー第1回の1部と2部の間が30分あるが、もう少し短い方が良いと思われます。学科専攻で2部が開始しやすい時間を設定していくことが必要と考えます。また、各セミナー</p> |

の開催については、各学科専攻の委員が中心となり、学生へ周知徹底を図り、参加者が多くなるように務めることが必要と考えます。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

キャリアセミナーやジョブカフェを開催し、進路支援や国家試験受験支援に取り組まれている。キャリアセミナー開催時の時間設定と参加者の増加に繋げる課題については、次年度以降検討が期待される。

委員長：細山田康恵

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2025年2月17日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

研究倫理審査委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の委員会での研究倫理審査申請に対する審査業務の着実な実行 ・今年度から開始した倫理審査の電子申請の定着 ・近年における政府の倫理指針の改訂に合わせての倫理審査過程を修正 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各案件の担当者選任の事前通知や議題の確認など委員会前の準備を定型化 ・4月の初回の電子申請の審査過程で顕在化した問題点の修正 ・倫理指針の改訂に準拠した本学の倫理審査申請書類書式の改訂 |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理審査申請に対する審査業務を毎回十分な準備（各案件の事前チェックや担当者選任の事前通知や議題の確認、事務担当者とのコミュニケーションなど）をして着実に実行できた。 ・新たに本学ホームページを使用したオプトアウトによるインフォームドコンセント手続きを、そのための諸準備を経て、できるようにした。 ・電子申請を今年度はじめから開始したが、特に修正すべき大きなトラブルもなく実行できており、現時点ですべての申請が電子申請になっている。 ・以下の倫理審査関連書類の新しい書式、1) 倫理審査申請書、2) 研究計画書、3) 説明文書、4) 研究終了・中止報告書、5) 研究経過報告書、を作成し学内公開した。 ・研究倫理審査委員会規程の一部改訂案を作成した。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>今年度の目標として掲げた項目はおおよそ達成できたと考えており、またそれに加えてオプトアウトや規程の改訂案の作成などのこともできたので上記の自己評価にした。</p> <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の「データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針」が時代にそぐわない面が目だってきており、その取扱いの検討を要する。これはここ数年来の課題であり、特に現在進行中のデータの取り扱いに関する全学的な方針作成作業の結果と齟齬がないようにする。 ・本学教員の他学などへの転出時の、本学で行った研究で得たデータの取り扱いを検討する。 ・近年の倫理指針の改訂などに伴う倫理審査のあり方の変容を周知するためのFDの開催を検討する。 ・オプトアウトの告知について、ホームページでの表示の仕方について見やすさなどを再検討し、必要があれば修正する。 ・電子申請について、現時点では学内委員に限定されている申請書類の電子ファイル化を学外委員にも適用可能か検討する。 |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>研究倫理審査業務の定型化により、着実に審査業務が実行されている。オプトアウトや倫理審査申請書の電子申請の整備についても評価できる。次年度以降、データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針を検討していくことが期待される。</p> |
| <p>委員長：加瀬政彦</p> |
| <p>面談者：佐藤紀子（総括委員長）</p> |
| <p>面談日：2025年2月17日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

国際交流委員会 活動達成状況点検・評価表 (2024 年度)

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外における国際交流活動を促進する。 ・多(異)文化交流を体得できる学びの機会提供に取り組む。 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本学と神田外語大学の共催で行われる「外国語による応急処置体験講習」について、2024年度も継続開催し、外国語(英語他)で応急処置を学ぶ機会を提供する。両校それぞれの強みを活かした学生間交流の充実とコミュニケーション能力の向上、受講者における高い満足度(受講後アンケートの満足度;80%以上)を目指す。 ② 国際理解教育の一貫として、本学学生と留学生を含む海外の方との交流イベントの企画・実施により、互いに多文化理解を深められる機会を提供する。 ③ 国際的な視野を持ち、社会に貢献する次世代を担う人材を輩出するべく、語学の習得を含む異文化理解をテーマとした学生対象のセミナー開催の企画について検討する。 |
| <p>3. 目標達成度(自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本学と神田外語大学の共催で行われる「外国語による応急処置体験講習」は、令和7年3月8日に開催予定である。今年度は、両大学合わせて定員30名とし、1月21日より参加者募集を開始したところである。昨年度のセミナー事後アンケートでは、参加者より「両大学の交流が有意義であった」「もっと交流の時間があっても良かった」との声があがっており、両大学の学生ともに交流の場を求めていることが推察されたことを踏まえ、今年度は応急処置の際の英会話講義と手技の体験に加え、昼食時間も活用して、両大学の学生交流の時間を確保し、他者との交流と応急処置経験を積む時間に配慮したセミナー構成としている。 ② 今年度は新しい試みとして、千葉大学に短期語学留学中のタイ・マヒドン大学学生(6名)と本学学生(15名)との国際交流会を令和6年8月7日に開催した。英語と日本語を交えての会話や学科紹介レクリエーションを通して、互いに異文化理解を深めることができた。グループに分かれてのフリートークでは、同年代の学生同士ということもあり、好きなアーティストやアニメの話などで大いに盛り上がり、約1時間半のイベント終了後もお互いに離れがたく、教室に残って交流している様子が見られ、参加学生からは、「言語の壁を低く感じるようになった」「勉学の意欲が高まった」などのコメントが寄せられ、有意義な国際交流会となった。この様子は本学広報誌に掲載予定である(令和6年12月に原稿案提出済)。 ③ 海外で活躍する医療従事者を講師にお招きし、アメリカの医療保険制度や各専門職の病院での実務、留学からキャリアアップについて講演いただいた。講師が海外在住のため、講演の様子は動画配信となったが、講師と学生有志とのweb対談という形式で、学生から直接講師へ質問する時間や意見交換する機会を設けることが出来た。学生からは「言語の壁を越えて医療の質を維持しようという工夫が印象に残った」「日本との違いを知って、より良い医療提供を行うために私たちにできることを考える良い機会となった」などのコメントが寄せられた。今後は語学の習得という観点に加え、国際化が進むわが国の状況を鑑み、現下の国際情勢が学べるような講演会企画も検討したい。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本講習は今年で第4回を迎え、神田外語大学と打ち合わせにおいては、令和6年度までの経験や反省を踏まえた講習構成、参加者募集方法を検討することができた。今年度の参加者事後アンケートを踏まえて、より良い講習となるよう尽力・継続していきたい。 |

- ② 昨年度のセミナー後のアンケートにおいて、「実際に海外の方と交流する機会が欲しい」というコメントを踏まえて、今年度は多文化理解に加え、実際に海外の方と交流できる機会を学生に提供することを目標のひとつとした。初めての試みで、交流内容の検討にも苦労したが、委員のアイデアと献身的なサポートの下、実現することが出来た。今後も本学学生と留学生を含む海外の方と交流を持つことで、互いに多文化理解を深められるような機会を提供していきたい。
- ③ 国際化が進むわが国において、社会の根幹を担う将来の保健医療専門職者である本学学生に海外で活躍する医療従事者の講演を提供することにより、文化の違いから保険制度や働き方が日本と海外とは異なること、キャリア形成の在り方など考えるひとつの機会となったと考える。今後は語学の習得という観点に加え、国際化が進むわが国の状況を鑑み、現下の国際情勢が学べるような講演会企画も検討したい。

[申し送り事項]

本学と神田外語大学の共催で行う「外国語による応急処置体験講習」は、次年度以降も継続開催する。また今年度取り組んだ、県内在住留学生（大学生）と本学学生との交流会イベントの企画・実施の継続、国際情勢が学べる講演会企画により、学生が多文化理解を深められるような機会を提供できるよう力を尽くす。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

2つの目標および具体的な活動計画の全てを実施できた。既存事業に加え、今年度新たに取り組んだ事業も含め、発展的展開が期待される。

委員長：谷内洋子

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2025年2月17日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

図書委員会 活動達成状況点検・評価表 (2024 年度)

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <p>① 学生の図書館利用及び文献活用を推進する。</p> <p>② 学生教育及び教員の研究活動に資する資料の収集・整備を継続する。</p> <p>③ 卒業生等の学外利用者の増加を図る。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① ・文献検索セミナー1回(3年生対象、オンデマンド)を開催し、評価・改善を行う。 ・文献検索ガイダンス5回(学科専攻毎)を開催し、評価・改善を行う。 ・低学年向けのセミナーについて検討する。 ・学生向けの推薦図書を配架する。 *評価指標:前年度と同等以上の利用状況の確保</p> <p>② ・学生向け推薦図書の配架や電子ジャーナルへの移行推進等、計画的に予算を執行する。 *評価指標:計画通りの予算執行</p> <p>③ ・学外者への図書館に関する情報発信を継続する。(卒業生への情報発信、図書館だよりの評価とHPへの掲載) *評価指標:前年度と同等以上の利用状況の確保</p> |
| <p>3. 目標達成度(自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満足な結果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>①文献検索セミナー(3年生対象、オンデマンド)を各学科・専攻を実施した(年度末までに視聴)。文献検索ガイダンス(3年生対象、実地研修4回・オンデマンド1回)を実施した。</p> <p>②推薦図書の予算の配分方法を変更して一部を全体調整予算として優先順位により決定した。共通教育の優先順位Cの一部を除いて購入した。2月7日時点で図書購入予算の約93%が執行済みとなり、残額についても年度内に執行予定である。</p> <p>③卒業生への図書館利用の案内送付、図書館だよりの発刊、ホームページによる情報提供を行った。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>①文献検索セミナーは、オンデマンド開催のため学科・専攻の希望に応じた時期に視聴する調整が行え、全学生に視聴の機会が提供できた。文献検索ガイダンスは、アンケートの結果から満足度が高かったが、PCを使用した方がより理解が深まるという意見や、時期を早めてほしい/卒業研究の時期がいいなどの意見が見られた。</p> <p>②各学科・専攻の推薦図書の予算の配分方法を変更した結果、ほとんどの推薦図書を予算内で購入することができた。しかし、予算を上回る推薦がある場合の調整について、引き続き評価していく必要がある。</p> <p>③図書館だよりに関するFormsアンケートには2名の回答があり、おおむね好評価であった。図書館だよりはHP上にも掲載し、千葉市図書情報ネットワーク加盟館紹介展で配布した。来館者数が減少傾向にあるが、オンライン利用の増加によるものと考えられる。</p> <p>④機関リポジトリの導入に伴う研究データポリシー検討ワーキングに加わった。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>①文献検索ガイダンスは、全学共通のオンデマンド教材を作成して繰り返し視聴できるようにする。実地研修は、LL教室を使用してPCを用いて行う。</p> <p>②推薦図書の全体調整について、今年度の方法を継続し評価する。特に予算を上回る推薦があった場合の推薦方法を検討する。推薦図書の貸し出し回数を確認して、推薦方法評価に活用する。推薦図書のリストアップの簡略化の希望があり、方法を模索する。</p> |

| |
|---|
| ③来館者数、図書貸出数、文献複写サービス数以外の図書館利用状況の評価方法について検討する。 |
| ④機関リポジトリの稼働・運用に向けた活動を行う。 |
| 5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 |
| <input type="checkbox"/> 5特に優れている <input type="checkbox"/> 4目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3目標に達している <input type="checkbox"/> 2やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1問題あり改善必要 (理由) |
| 図書館利用推進の活動は目標通りに行われている。活動に当たっては学科・専攻の要望に配慮するとともに、アンケート実施により利用者評価を行うなど、活動のマネジメントが適切に行われている。 |
| 委員長：石井邦子 |
| 面談者：佐藤紀子（総括委員長） |
| 面談日：2025年2月20日 |
| 自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕 |

社会貢献委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <p>① 社会貢献に関するFD/SDを開催し、本学が果たす社会貢献の質向上に努める。</p> <p>② 研究成果を踏まえた公開講座を企画・実施する。</p> <p>③ 県民の生活の場における健康づくりに資するほい大健康プログラムを企画・実施する。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 社会貢献に関するFD/SDを1回開催する。</p> <p>② 研究成果を踏まえたテーマを設定し公開講座を来場型とオンライン型のハイブリッド形式で1回企画・実施する。</p> <p>③ 「ほい大健康プログラム」をUR団地で2回、いすみ市で2回、大学幕張キャンパスで2回企画・実施する。</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1非常に不満な結果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① 「社会貢献への理解を深める：さまざまな社会貢献の方法（地域連携）」をテーマとし、講師島田美恵子先生（歯科衛生学科教授）によるFD/SD(レベル1)を3月18日に開催予定（2月28日現在）。</p> <p>② 「健康な未来へ」をメインテーマとし、看護、栄養、歯科衛生、リハビリテーション（作業）の4学科の講師による公開講座を開催した。来場・オンラインのハイブリッド形式で来場者101名、オンライン参加者33名であった。参加者アンケートは講演内容や開催方式に対し概ね肯定的な評価で目標を達成できた。</p> <p>③ 「ほい大健康プログラム」を千葉市内UR団地で2回、いすみ市で2回、幕張キャンパスで2回実施した。延べ56名の方に参加いただき、参加者アンケートは満足度が高く目標を達成できた。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>① 社会貢献の地域連携について、学内教員に具体的な実践内容を講演いただき、理解を深めるFDを企画できた。</p> <p>② 公開講座のハイブリッド形式について概ね肯定的な意見であったが、会場ではスライドの画面が消える、オンラインでは音声聞こえにくいという意見があったため、改善が必要。年1回開催の変更に伴い1講演あたりの時間は短縮されたが、それによる否定的な意見はなかった。次年度は4学科2専攻の5講演にするか検討。</p> <p>③ ほい大健康プログラムは、UR団地各回20名、いすみ各回50名、幕張キャンパス各回20名で参加者を募集しているが、参加人数は名5～12名にとどまっているため、参加者確保が課題。ボランティア学生、社会実習履修学生の参加により、参加者と学生の双方に良い影響があったが、学生の参加方法による違いが不明瞭なため、学生の協力体制を検討。</p> <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほい大健康プログラムは効果の判定や普及について引き続き検討が必要。社会実習（自由科目）との関係について明確化していく。いすみ市については、大学内でほい大健康プログラムとは別の協同事業もあるため、事前のすり合わせが望ましい。 ・ 公開講座は年1回開催で問題はないため、音声映像等のトラブル対策を施しハイブリッド開催を継続する。 |

| | |
|--|-----------------------------------|
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p> <input type="checkbox"/> 5特に優れている <input type="checkbox"/> 4目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3目標に達している <input type="checkbox"/> 2やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1問題あり改善必要 </p> | |
| <p>(理由)</p> <p>計画通りに遂行されている。ほい大健康プログラムの効果判定や普及についての引き続きの検討や社会実習との関係の明確化、公開講座における音声映像等のトラブル時の対策の検討が期待される。</p> | |
| | 委員長：木内千晶 |
| | 面談者：佐藤紀子（総括委員長） 面談日：2025年2月20日 |
| | 自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕 |

自己点検・評価委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <p>①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。</p> <p>②大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応を進める。</p> <p>③IRの機能を促進する。</p> <p>④大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①・令和5年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会の年間スケジュールに従い、部会の所掌事項を推進していく。 ・委員会の令和5年度目標達成度から、委員会の所掌について検証する。 <p>②・評価報告書の指摘事項への対応を、責任部署で計画に従って進める。</p> <p>③・卒業時調査や適宜実施される学生調査の分析、結果を公表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表する。 ・各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続する。 ・教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を継続する。 <p>④・①②③に基づき、体制の構築を検討する。</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1非常に不満足な結果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>①・「委員会活動達成状況点検・評価報告書」令和5年度を学内・学外公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度版は作成プロセスを改善済かつ準備も整っており、例年通り3月下旬に完成予定である（1月24日現在） ・令和5年度教育研究年報は予定通り12月に発行した。令和6年度年報の執筆依頼は2月におこなった。 <p>②・認証評価の評価報告書における9つの指摘事項について、改善に向けた取り組みの今年度の進捗状況を各担当部署に確認した。</p> <p>③・令和5年度卒業時調査結果を6月に報告した。今年度の調査は質問内容精査を終えてFormsで3月中旬までに実施予定である（2月18日現在）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IRコンソーシアムの学生調査（1年生、4年生対象）を実施した。 ・卒業生調査結果を8月に学外公開した。 ・IR部会でINDEX作業を継続して実施した。 ・教育研究年報の学科・専攻の量的データ集約を、教育研究年報作成部会で昨年度に続き収集した。 <p>④・大学組織図および内部質保証システム体系図の改正をはかった。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>各目標は概ね達成できた。IR機能促進においては、複数の学生調査実施や年報の量的データなどの集約は達成できたが、分析データの公表にあたっては計画的に実施していきたい。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。各委員会の所掌の確認や連携の検討を継続する。</p> <p>②大学機関別認証評価の評価報告書における指摘事項への対応を進める。</p> <p>③IRの機能の促進をはかる。</p> <p>④大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しを提言する。</p> |

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

学生や卒業生調査の実施や年報の集約など目標に沿った活動が実行されている。大学機関別認証評価の評価報告書の指摘事項への対応や、IR 機能促進に向けた分析データの公表に向けた継続的な取り組みが期待される。

委員長：平岡真実

面談者：大川由一（総括委員長）

面談日：2025年2月18日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

将来構想検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <p>①千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進をはかる体制を整備する。</p> <p>②社会貢献・シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する。</p> <p>③保健医療の向上への貢献を推進するために本学に求められる機能充実の方策を検討する。</p> <p>④自律的な大学運営に向けた検討を行い、本学の方針を明確にする。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①-1 令和6～10年度の各委員会・学科専攻の重点施策の目標・評価指標の設定（新規）</p> <p>①-2 令和6年度の各委員会・学科専攻の重点施策の目標・評価の点検（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月初に重点施策の担当（責任）部門等に令和6～10年度および今年度の目標と評価指標の設定を依頼 ・本委員会で各項目の点検担当を決定し、目標および評価指標の妥当性を検証。適宜、修正を依頼し、6月末に確定 ・2～3月に同様の手順で、今年度の評価検証を実施 <p>②-1 教員懇談会の実施（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8～9月頃に教員懇談会を開催し、今年度予算による本学の機能強化に向けた調査の進捗状況や検討会の開催状況など、県健康福祉部における動向について、教員全体への情報提供を行う。また必要に応じて、本学教員からの意見収集に努め、健康福祉部における検討に反映させるなど、健康福祉部と本学間の積極的な情報共有および意見交換に努める。 <p>②-2 健康福祉部への取組報告会の実施（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部関係課の本学への理解・関心を促進するとともに、今後の取組に反映させるための意見交換を実施（10～11月頃を予定） <p>③④ 今年度予算で実施される、本学の機能強化に向けた調査への参画、または調査の進捗状況に関する情報収集を行いながら、本学に求められる機能充実の方策を検討し、必要に応じて県健康福祉部へ意見を上申する。法人化、ワンキャンパス化の必要性についても、この中で整理していく。</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① -1・2 4月に令和6～10年度の重点施策の目標・評価の点検のための体制を整備。5月に関係部門に目標・評価指標の設定を依頼し、点検・修正後、6月の全学運営会議で報告し承認を得た。1月末に関係部門に今年度の達成状況の評価を依頼し、委員会で検証した結果を3月の運営会議で報告する。</p> <p>② -1 保健医療大学機能強化に向けた検討会議についての情報把握を行い、委員会にて共有した。この会議の最終報告をふまえ、3月18日（火）13時30分～14時20分 図書館棟中講義室において、「将来構想にかかる情報共有会」を実施する予定。</p> <p>② -2 11月7日（木）11時～12時 千葉県庁本庁舎において取組報告会を実施。参加者29名（健康福祉部16名、本学13名）。詳細については令和6年度大学紀要に掲載。</p> <p>③④ 保健医療大学機能強化に向けた検討会議の中で、大学院設置、法人化、ワンキャンパス化について検討された。会議に先立ち、学内ヒアリングが複数回あり、委員会での議論をふまえ、委員会の意見として回答した。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>目標①②に関わる取組は、一部時期を変更したが、ほぼ計画通りに実施することができた。①-2については、継続審議中だが、3月の大学運営会議には最終結果を確定する見込みである。</p> |

目標③④については、検討会議の動向についての情報収集を行い、委員会での情報共有や意見集約を行った。今後、検討会議の最終報告をふまえ、健康福祉部医療整備課との連携をはかりながら、さらに具体的な内容について検討を進めていく必要がある。また検討の動きに応じて教員懇談会や情報共有会の場を設けるなどして、全学的な検討を進める必要がある。

[申し送り事項]

検討会議の最終報告をふまえ、令和7年10月に本学機能強化に関する基本方針が決定され、大学院設置・法人化に向けた具体的な準備が開始される。その進展にあわせて、医療整備課との調整および委員会での検討を進める。あわせて教職員へのタイムリーな情報提供・意見集約に努め、適宜、教員懇談会などを開催する。県への取組報告会は継続して実施する。

令和6年度より開始された新たな重点施策について、関係委員会、学科専攻との連携をはかりながら取り組み、その進捗を管理する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

本学の将来に向けた重点施策の推進体制整備や社会貢献・シンクタンク機能強化への取り組みは予定通りなされている。本学の機能強化や自律的運営に向けた検討は、具体的に進行しており次年度以降の検討・進展が期待される。

委員長：河部房子

面談者：大川由一（総括委員長）

面談日：2025年2月21日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

総務・企画委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <p>①優先順位に基づく学内環境（プロジェクター、教室の机・椅子、空調設備等）の整備</p> <p>②令和7年度に向けた予算要求</p> <p>③整備計画に基づく学習環境設備の進捗状況の検証、教員および学生による継続的な評価</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①令和6年度の学内環境の整備については、各学科専攻に対して行った意向調査に基づき優先順位をつけ順次整備する。</p> <p>4月：全学整備品及び各学科・専攻等の備品は、意向調査に基づき優先順位決定する。</p> <p>5月～：4月に決まった優先順位に基づき順次整備を行う。</p> <p>図書館棟大講義室のプロジェクターについては、修繕費枠で大型スクリーンのプロジェクターに交換予定。</p> <p>②令和7年度の予算請求は各学科専攻に対して行った意向調査及び長期整備計画に基づき行う。</p> <p>5月初め～5月末：令和7年度の予算要求に向けた各学科専攻に対して調査を行う。</p> <p>7月：調査結果に基づき優先順位を決定する。</p> <p>③各教室の机・椅子などは長期計画を立てて整備する。</p> <p>令和2年度の総務企画委員会で決定している未整備箇所について、順次整備する。</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>上記に掲げた活動計画については概ね達成されたと考えられる。特に図書館棟大講義室は授業だけでなく様々な説明会やセミナーでも使用されるため、大型スクリーンのプロジェクターが交換できたことの意義が大きいと考えられる。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>毎年の卒業生アンケートで設備についての意見が多数あがり、整備途中のものも多数あるため、引き続き様々な設備の整備を行っていくことが重要である。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>未整備箇所について計画通り順次整備していくとともに、エアコンやプロジェクターの故障など突発的な事案で緊急で対処が必要な事柄は柔軟に対応していくことが重要である。</p> |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>学内環境の整備・調査等に基づいた予算請求・大型スクリーンのプロジェクター交換など計画通りに実施されている。次年度以降、引き続き未整備箇所の整備・突発的な設備の故障等の対応が期待される。</p> |
| <p>委員長：山本達也</p> |
| <p>面談者：大川由一（総括委員長）</p> |
| <p>面談日：2025年2月18日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

広報委員会 活動達成状況点検・評価表（2024 年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの来場者の増加 ・受験情報サイト、ホームページの充実のための方策と予算の検討 ・ホームページや SNS、広報誌による本学活動の情報発信 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの来場者の増加（全体で 1500 名以上の動員）を目指すとともに、充実した情報を得ることができるよう企画・検討し、滞りなく運営する。 ・大学案内 2026、広報誌を発行する。 ・受験情報サイトへの情報発信に関する方策や予算の検討を行う。 ・ホームページ等において、各種行事や教育・研究の情報等、大学の活動に関する広報の充実を図る。 ・学生の活動や学科専攻の活動紹介について、SNS を活用した情報発信（50 件を目標）を継続して取り組む。 ・ホームページ更新に係る所掌の計画を明確にして、確実な更新ができるようなシステムを構築する。 |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満足な結果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス来場者は 2 日間で学科専攻の延参加者数は 2,439 名であった。家族連れの来校者があったこと、昨年度より参加者が増加した学科・専攻のブースがあったことから、目標を達成する来校者数であった。 ・SNS による本学の情報発信について、オープンキャンパスや公開講座などの行事、学科・専攻の活動紹介などの情報発信 54 件（2025 年 1 月現在）の広報活動を行った。 ・受験情報サイトへの情報発信について、受験情報サイトの営利目的が明白で本学の有益となることが考えにくいことから、受験情報サイトの活用は行わないことになった。 ・ホームページを用いた大学の活動の広報について、教員の研究に関するインタビュー記事が掲載されたホームページを紹介するコーナーを設定したり、広報誌アーカイブを掲載したりして、ホームページの充実を図った。 ・ホームページ更新に係る所掌について、各所掌のガントチャートを作成し、スケジュールに沿った所掌を遂行したうえで、予定通りホームページを更新できるようにした。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスを予定通り開催し、昨年度より参加者数が増加した。 ・ホームページ、SNS による情報発信は、予定通りの広報ができた。 ・新たにホームページに教員の活動の紹介や広報誌アーカイブ掲載のコーナーを設定した。 ・今後も本学の広報活動の方法を検討して、積極的に情報発信する必要がある。 ・教員の活動紹介等の内容をホームページで紹介することに関する規程作成に至らず、持ち越しとなった。令和 7 年度に規程作成を引き継ぐ。 <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの計画、開催 ・大学案内、広報誌の編集・発行 ・ホームページならびに SNS を活用した大学の活動の情報発信を行う。 ・教員の活動紹介等の内容をホームページで紹介することに関する規程を作成する。 |

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

オープンキャンパスは委員会の尽力により円滑な運営が行われ、目標以上の来場者を得た。大学広報として SNS 配信やホームページ更新はスケジュールを明確にして運営されるとともに、充実した内容となるよう積極的な情報発信活動を行っており、目標に達する活動ができた。

委員長：酒巻裕之

面談者：大川由一（総括委員長）

面談日：2025年2月21日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

情報システム委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| | | |
|--|-------------------------------|---------------------------------|
| 1. 目標 学内情報システムについて組織的な運営体制を構築する。 | | |
| 2. 目標達成のための具体的な活動計画 1) 情報セキュリティポリシーを運用し、必要に応じて見直し・改善を図る。 2) 学内ネットワーク、教員用 PC 等のメンテナンスおよびトラブルに対して組織的に取り組む。 3) 次期情報システムへの移行に向けた準備を進める。 | | |
| 3. 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果 | | |
| 4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項 [達成事項] 1) 本学の情報セキュリティポリシーは、千葉県「基本方針」及び「対策基準」に従うこととなるため、これまでのセキュリティポリシー、運用規程、対策基準を新たな情報セキュリティ運用規程に集約化した。 2) 学内ネットワーク、教員用 PC 等のメンテナンスおよびトラブルに対しては、第 1 段階として、各学科専攻の委員がトラブル発生等の報告を受ける窓口となり、過去の事例や自身の知識等で解決可能な場合は即座に対応することとした。委員による解決が難しい場合は、第 2 段階として、情報システム委員会と共有し、他の委員や事務局と相談・共有の上、解決に向けて動くという体制を構築した。 3) 次期情報システムへの移行に向けて学内情報システム更改作業が令和 7 年 1 月末までに 5 回実施され、以下のとおり設備の更改を行い学内の PC 及びネットワーク環境の改善が図られた。 | | |
| | 更改前 | 更改後 |
| PC | Core i3 (8thGen) /HDD/4GB メモリ | Core i3 (12thGen) /SSD/16GB メモリ |
| 無線 LAN AP | Wi-Fi5 規格/44 台 | Wi-Fi6 規格/58 台 |
| また、「Microsoft365 A3」導入に伴うデスクトップ版 Office の教員、学生へのライセンスの付与が 1 月末までに終了し、教員に新たな PC が配布された。今後マニュアル配付を教員、学生向けに行う予定である。CampusPlan への外部アクセス（成績照会、履修登録）は、当初の予定より前倒し、今年度末に運用することとなった。 | | |
| [評価結果の理由と改善策] 年度当初に掲げた 3 つの活動計画（情報セキュリティポリシーの改正、情報システムに係る問い合わせ及びトラブルへの対応、次期情報システムへの移行に向けた準備）は、概ね達成されたと考えられる。 | | |
| [申し送り事項] システムの新たな機能として、学生向け発行証明書（成績証明書等）のオンライン申請及びコンビニ発行が追加され、4 月からの運用が予定されている。今後、マニュアルの作成を含め、適切な管理・運営が必要となる。 | | |
| 5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 | | |
| (理由) 活動計画は着実に実行された。3) のシステム移行に関しては、可能な事項から前倒しで実行され、特に CampusPlan への外部アクセスの運用開始は学生・教員の利便性を大きく改善させた。 | | |
| 委員長：大川由一 | | |
| 面談者：龍野一郎（学長） | | |
| 面談日：2025 年 2 月 17 日 | | |
| 自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕 | | |

衛生委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <p>1) 職員の危険及び健康障害を防止するための基本対策を策定し実施する。</p> <p>2) 職員の健康の保持増進を図るための基本対策を策定し実施する。</p> <p>3) 公務災害の原因及び再発防止策で衛生に関する対策を実施する。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 産業医・安全管理者による定期的な構内巡視とそれに基づく改善。</p> <p>2) 学生・教職員に対する学内での健康障害防止と健康保持への取り組み。</p> <p>3) 職場の心のケアの増進（ストレスチェックとフィードバック）。</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 産業医による定期的な構内巡視の実施。 ● 労働安全衛生法で定めのある環境測定の実施予定(栄養学科及び歯科衛生学科で使用する化学物質が対象)。 ● 衛生委員会にて、構内の労働衛生上の問題の把握と改善の討議。 ● ストレスチェック実施と高い受診率。 ● 職員対象に対してメンタルヘルスケアの研修会の実施。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>労働衛生環境は比較的保たれており、学生及び職員の学内での健康障害防止・健康保持への有効な取り組みが行われている。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>引き続き、法令を遵守し、安心安全な職場環境の保持と、職員の健康増進をはかる。</p> |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>目標に沿って、計画通り実行されている。職員の健康の保持増進に向けた継続的な活動が期待される。</p> |
| <p>委員長：龍野一郎</p> |
| <p>面談者：大川由一（総括委員長）</p> |
| <p>面談日：2025年2月17日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

危機管理委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <p>1) ChatLuck を活用した確実な緊急時の連絡体制を整備する。</p> <p>2) 千葉県 of BCP（事業継続計画）と接続した災害対応を整備する。</p> <p>3) 地震発生 of 想定を盛り込んだ防火訓練を実施する。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 全教職員が ChatLuck を使えるよう周知および Download（以下、DL と称す）の支援を行う。必要時 DL マニュアルを作成し、オンラインでの周知を行う。全教職員の準備が整い次第、ChatLuck での緊急時連絡の訓練を行う。</p> <p>2) 千葉県の BCP を確認し、本学の現存の災害対応（危機対応）初動マニュアル、防火訓練マニュアル、Jアラート対応マニュアル、危機管理の方針など、関連するマニュアルなどとの整合性の点検を行う。学生の安否確認を関連委員会（学生委員会、教務委員会）と連携してマニュアル化する。必要時、マニュアルは改訂する。</p> <p>3) 地震発生＋火災想定 of シナリオで、両キャンパスとも訓練を行う。</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足 of いく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通り of 成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足 of 成果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満 of 成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>目標 1) ChatLuck を活用した確実な緊急時の連絡体制を整備する。</p> <p>全教職員への周知および DL の支援を行った。DL マニュアルは企画運営課担当者が作成した。ChatLuck での緊急時連絡の訓練は、4月18日、8月21日に実施した。4月は整備不十分で、一部、電話連絡を併用した。8月は学内対象者102名で実施し、30分以内 of 返信が73.5%を占めた。一方、24時間以上連絡がない者が3名いた。課題は、学科長が確認連絡できない場合 of 代替手段が決まっていないことであった。</p> <p>目標 2) 千葉県の BCP（事業継続計画）と接続した災害対応を整備する。</p> <p>千葉県の BCP を確認し、現存の関連マニュアル等 of 整合性を点検して改訂版を作成し、大学運営会議で承認を得た。主な変更点は、教員の自動配備の変更に対応したものであること、自衛消防隊と災害対応（危機対応）初動マニュアル of 初動配備体制をリンクさせることなどである。また、学生の安否確認は関連委員会（学生委員会、教務委員会）と連携させた。2～3月に改訂版について、教職員へのオンデマンドFDを開催予定である。</p> <p>目標 3) 地震発生 of 想定を盛り込んだ防火訓練を実施する。</p> <p>幕張・仁戸名 of 両キャンパスとも、地震発生＋火災想定 of シナリオで訓練を行った。仁戸名キャンパスはこれまでも地震を想定した訓練を行っていたため大きな変更はなかった。幕張キャンパスでは、訓練シナリオに「震度6が発生した」を導入した。地震を想定する避難は校庭ではなく駐車場が望ましいが、訓練日 of 職員の車の移動など、準備不足で実現できなかった。次年度 of 訓練は6月27日（金）5限にコマをとって実施する予定である。</p> <p>[評価結果 of 理由と改善策]</p> <p>目標 1) ChatLuck は千葉県が利用する職員 of 連絡システムであったため、導入もスムーズであった。8月の訓練によって、電話よりも速い伝達手段であると確認できた。一方、1日以上反応がなかった職員 of 理由は、スマートフォンの機種変更などのデバイスの都合もあった。個人における速やかなデバイス整備を勧奨していく。また、災害時に学科長に異変があった場合に備えて、学科ごとに情報集約 of 補佐を決めておく必要がある。</p> <p>目標 2) 企画運営課担当者との連携により年度内 of 作成が可能であった。FD の開催は教職員 of 時間がないことを考慮し、オンデマンドFDとしている。</p> |

目標3) 避難訓練の日に間に合うように、キャンパス内において校庭以外に避難できる場所の確認、関連各所、各人への連絡などができなかった。次年度はこれらの準備を行うとともに、主に全学1年生を対象に時間をとって実施する予定であるため、内容を充実できるよう努める。

[申し送り事項]

- ChatLuck 利用マニュアル等の整備（機種変更時等の対応を含む）と連絡訓練の実施
- 災害対応（危機対応）初動マニュアルに則った防災訓練を実施する。
- 全学1年生を対象に幕張キャンパスでの防災訓練を千葉市消防署と連携して実施する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

3つの目標及び具体的計画の全てを実施できた。現状を踏まえた具体的な課題が明確化されており、次年度以降での、より実践的な体制整備が期待される。

委員長：春日広美

面談者：大川由一（総括委員長）

面談日：2025年2月18日

自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕

人事委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <p>1) 教員組織の定期的検証を実施し、必要に応じて組織の見直しを検討する。</p> <p>2) 教育の質を継続的に保証する教員組織の検討、対応を行う。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) (A) 令和6年5月時点での「教員組織の定期的検証」を実施する。 (B) 基準を十分満たすよう人事組織編成の検討を行う。</p> <p>2) 主要と認める「専門必修科目」について教授又は准教授が担当する比率を高めるよう、教員組織を含めて検討を行う。(機関別認証評価結果)</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1) 教員組織の定期的検証を実施した。</p> <p>(A) 令和6年度「教員組織の定期的検証」を実施し、7月大学運営会議へ報告した。概ね基準に達していると評価された。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「管理栄養士養成」に5月段階で1名欠員があったが10月助教採用により解消した。 <p>(B) 基準を十分満たすために人事組織編成の検討が必要とされる項目を明らかにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「男女比」概ね許容内であるが、理学療法学専攻は女性0%で、今後改善が望まれる。 - 「博士号取得率」講師53%(目標70%)と助教18%(目標40%)の改善が望まれる。 <p>2) 教育の質を継続的に保証するため、本学の「主要科目」と認める「専門必修科目」について教授又は准教授が担当する比率を高めるよう委員会は教員組織の検討を続けてきた。理学87%(昨年度66%)・作業75%(昨年度48%)の両専攻が大幅に改善し、全学平均も84%(昨年度73%)となった。リハビリテーション学科の教授・准教授増と欠員解消、および専攻での専門科目担当者の再検討により改善が実現できた。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>目標通り、年度ごとの「教員組織の定期的検証」を実施、概ね基準に達していることを明らかにした。特に前年度までの教授・准教授の割合増の効果等により、主要科目について教授又は准教授が担当する比率を大幅に向上することが出来た。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>引き続き、来年度も以下2点を目標・活動計画とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「教員組織の定期的検証」を5月1日基準で毎年行い、教員組織の管理・点検を継続する。 ② 教育の質を継続的に保証する教員組織となるよう専門必修科目の教授・准教授の担当比率の改善等の方法を検討する。(大学認証評価結果) |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>目標達成のための活動は計画的に実施された。教育の質を継続的に保証するための教員組織の検討、対応が進められている。</p> |
| <p>委員長：神田みなみ</p> |
| <p>面談者：大川由一（総括委員長）</p> <p>面談日：2025年2月19日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

教員再任審査委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|---|
| <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審査方法に則って適正に教員再任審査を実施する。 ・ 令和7年度4月1日施行の新規における審査項目や方法について、学内者に周知する。 |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審査方法に従い審査を滞りなく実施する。 ・ 令和7年度から導入される審査項目や方法について学内者に周知を行う。 ・ 報告書様式の記載例を洗練する。 |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>委員会を4回開催し、審査規程および審査方法について確認しながら、前期申請者3名、後期申請者4名の再任審査を実施し、教授会への審査結果の報告および申請者への再任の可否の通知を予定通りに行うことができた。令和7年度からの規程については、4月の教授会で報告したのち、4月5月の委員会で周知方法を検討したうえで6月に教員向けにメールで周知した。その後、申請準備に備えて11月に教員に再度メールで周知した。業績報告書の様式の記載例を見直したが、修正の必要な箇所は見当たらなかった。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>今年は再任申請者が多い年ではなかったため、専門部会は設置せず、委員のみであったが、滞りなく審査を実施することができた。また、令和7年度から導入される審査項目や方法について周知できた。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>次年度は新しい規程での審査となるため、審査者間で齟齬がないよう、審査項目や審査方法について確認しながら審査を実施する必要がある。また、再任審査の公平性・透明性の確保に向けた課題がないか検討し、必要時は規程や審査方法、様式の見直しを行う。</p> |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>審査方法に従い適正に教員再任審査を滞りなく実施した点、令和7年度から導入される審査項目や方法の周知を計画通りに進められた事は評価すべき項目である。次年度以降も教員再任審査の公平性・透明性の確保の継続が期待される。</p> |
| <p>委員長：小宮浩美</p> |
| <p>面談者：大川由一（総括委員長）</p> <p>面談日：2025年2月17日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |

キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 活動達成状況点検・評価表（2024年度）

| |
|--|
| <p>1. 目標</p> <p>学生、事務職員、教職員に対してハラスメントの基礎知識を周知し、学内で生じたハラスメントに適切に対応する。</p> |
| <p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) ハラスメント対応に関するフローチャートの改訂・周知</p> <p>2) 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査の実施</p> |
| <p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p> |
| <p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>これまでハラスメント相談員に外部相談員がいなかったため利用率に影響していると考えられていたが、今年度外部相談員にあらたに相談員に加わっていただきフローチャートも改訂できた。Teams 等で周知したが 2025 年 2 月 3 日に行われる FD・SD でも周知した。学内ハラスメント研修会及びアンケートは 2025 年 2 月 3 日に施行した。</p> <p>今年度も学内でハラスメントが疑われる事案が発生したが、臨時委員会を開催して対応した。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>年度当初に掲げた活動計画は概ね達成されたと考えられる。ハラスメントが疑われる事案が発生した際は教職員・学生とも相談しやすい環境を提供することが重要であると考えられる。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>ハラスメントが疑われる事案が発生した際は教職員・学生とも相談しやすい環境にすべく努力する必要があり、まずはフローチャートの周知・徹底を継続して行う必要がある。</p> |
| <p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>ハラスメント対応に関するフローチャートが改訂され、研修会や Teams を通して周知がされている。ハラスメントが疑われる事案が発生した場合にも適切に委員会で対応できている。</p> |
| <p>委員長：山本達也</p> |
| <p>面談者：大川由一（総括委員長）</p> <p>面談日：2025 年 2 月 18 日</p> |
| <p>自己点検・評価実施推進部会長：江戸優裕</p> |